

急性期病院総合診療部門における 診療看護師 (JNP) の役割

鄭 東 孝[†]第74回国立病院総合医学会
(2020年10月17日～11月14日
WEB開催)

IRYO Vol. 76 No. 3 (220-224) 2022

要 旨

高齢社会では、従来の病院医療の主体であった治療医学のみでは対処困難な患者は多く、入院関連機能障害に適切に対処するために患者機能に焦点を当てた病院医療の再設計が求められている。看護師のバックグラウンドを持ち、診療行為に参画可能な診療看護師 (JNP) は、次の4要素の能力を発揮することで入院中の生活能力低下にもっとも上手く対処できる。すなわち、入院時および在院期間を通じて患者の機能を評価する-Assessment、入院中の患者の身体活動を促し推進する-Promotion、機能回復を阻害する合併症や病院での患者の自立を阻害する手順を避ける-Avoiding、患者機能を補完する有効な支援をともなった退院計画を策定する-Planning、である。それらの能力を系統的に体得し実践するシステムを構築することが、JNPの特性を活かすイノベーションになる。

キーワード 入院関連機能障害、病院医療の再設計

急性期病院における入院医療の現状

東京医療センターは、筆者が所属する総合内科以外に各領域の臓器別専門診療科、3次救急に対応する救命センターを有し、地域医療体制では高度急性期病院と位置付けられている。しかし、高齢社会を反映し、救急経由も含め高齢者の入院は多く、総合内科では65歳以上が常時80%以上を占めている。最多の年代は80代であり、90代もかなり多い。その結果、急性期治療が奏功し重篤な状態から離脱、疾患の生物医学的課題が解決しても患者が退院できない状況が頻発している。なぜなら、せん妄、嚥下機能障害、廃用等が進み、日常生活能力の低下への対処、療養介護体制の見直しが必要となるからである。こ

のような状況では多職種の関わりは不可欠であり、専従看護師による退院支援や医療ソーシャルワーカー (MSW) 介入の件数は年々増加している。

退院支援とMSW介入事例が総合内科退院総数に占める割合も、2017年30.7%、2018年37.8%、2019年が46.1%であり、介入率の上昇も著しい (図1)。急性期病院における入院医療のひとつの「ゴール」は「退院」ということができるが、疾患の治療や病態の改善だけでは「ゴール」に到達しない患者が多数存在し、それに対応しなければならないのが急性期病院の現実である。

国立病院機構東京医療センター 総合内科 [†]医師

著者連絡先：鄭 東孝 国立病院機構東京医療センター 総合内科 〒152-8902 東京都目黒区東が丘2-5-1

e-mail : chon.tonhyo.pv@mail.hosp.go.jp

(2021年8月24日受付、2022年2月25日受理)

JNP's Advanced Role on General Medicine of Acute Hospital

Chong Tong Hyo, NHO Tokyo Medical Center

(Received Aug. 24, 2021, Accepted Feb. 25, 2022)

Key Words : hospitalization-associated disability, reengineered hospital care